

## 平成30年度第2回 印旛地区地域審議会・本埜地区地域審議会 合同会議 会議録

- 1 **開催日時** 平成30年10月25日（木）午前10時～11時10分
- 2 **開催場所** 印西市役所別館1階 農業委員会会議室
- 3 **出席者** (印旛地区地域審議会)  
櫻井健一 委員、横山三夫 委員、櫻井由紀子 委員、片倉恵美子 委員、  
竹内仁 委員、吉岡昌瑞 委員、中村恵利子 委員、須藤賢一 委員  
(本埜地区地域審議会)  
松苗一樹 委員、菅原勇 委員、織原拯 委員、岩井とし子 委員、鳩貝太郎 委員、  
鳥羽功雄 委員、颯佐春美 委員、大塚延男 委員
- 4 **欠席者** (印旛地区地域審議会) 関野庄悦 委員、大野忠行 委員  
(本埜地区地域審議会) 森田文雄 委員、植木清 委員、
- 5 **事務局** 杉山副市長、酒井企画財政部長、小林課長、齊藤課長補佐、富澤係長、本田
- 6 **傍聴者** 0名
- 7 **議事** (1) 新市基本計画及び取組状況について  
(2) 今後のスケジュールについて

### 8 議事録(要点筆記)

- ・印旛・本埜地区地域審議会の委員を委嘱。
- ・印旛・本埜地区地域審議会それぞれにおいて、会長、副会長を選出。その結果、印旛地区は会長が大野委員、副会長が竹内委員、本埜地区は会長が鳩貝委員、副会長が鳥羽委員をそれぞれ選出する。
- ・新市基本計画の執行状況（総括評価）について諮問。

#### ○議事(1) 新市基本計画及び取組状況について

##### 事務局説明

- ・審議会の設置について、旧2村の意向を踏まえ、資料1「地域審議会の設置に関する協議書」に基づき設置されている旨を説明。委員の任期や所掌事務を説明する。
- ・新市基本計画について説明。計画期間は合併後おおむね10年間で、将来像の実現に向け、魅力あるまちづくりと住民福祉の向上、新市全体の均衡ある発展を図っていく内容となっている。新市の施策として、生活環境、健康福祉、産業振興、教育文化、都市基盤、協働・行財政の6分野に22の施策と111の主な取組みを掲載。
- ・取組状況について、資料3-1に基づき説明。新市基本計画事業が、市の総合計画に基づく実施計画事業としてどういう形で取り組まれているかをまとめたものとなっている。また、行政評価として取組み等を自己評価しており、平成29年度の評価を掲載。

・新市基本計画の執行状況について、1生活環境の分野においては、すべて継続的に進めており、合併時と比べ各事業、拡充等を図りつつ押し進めている。その中で「6 歩行喫煙及びポイ捨て等防止対策事業」と「10 ごみの減量化・再資源化の推進」について、6については前年度に比べ指導件数が増えてしまったこと、10については昨年度よりも一人1日あたりのごみ量としては削減できたものの、目標としていた減量値にまでには至らなかったということでC評価となっている。また、F評価の「8 みどりの基本計画の見直し」については、見直し策定までは進んでおらず、今後、都市マスタープランの改定とあわせて平成32年度策定を目途に業務を進めている。

・2「健康福祉」の分野においても、すべて継続的に取組まれている。ただし、「25 保育園運営事業」については、平成22年合併当時12施設だった保育園が、今年4月現在26施設と倍以上増えたものの、それ以上の人口増もあって、待機児童が昨年度よりも増えてしまったためにC評価となっている。また「39 障がい者（児）福祉施設整備事業」の取組みの一つ、障がい者サポートセンター整備事業については、現在、印旛高校跡地に障がい者対象の相談支援を主とするサポートセンターを整備しているものの、当初予定よりも遅れてしまったことからC評価となっている。

・3産業振興の分野においても、すべて継続的に取組まれている。そのほか、合併当時にはまだ問題視されていなかったイノシシ等の有害鳥獣対策等にも、現在は力を入れている。施策①農業振興のうち「45 市民農園振興事業」としては、印旛高校跡地に収穫等の体験型の市民農場を整備しているものの、工事の進捗からE評価となっており、31年度供用開始予定で進んでいる。また、施策②の企業誘致の促進のうち「47 企業誘致推進事業」「48 業務用施設用地等への立地促進事業」については、千葉ニュータウン事業の収束の関係もあり、合併時約200ha残っていた未処分地も、残り約4haほどまで処分が進んでいる。施策③④の中の「50、54 特産品づくり（ブランド化）事業」については、商工業の活性化事業としてB評価としているが、ブランド化に限ると、味噌ピーから上げや農産物のブランド化を試みたものの、なかなか確立していない。

・4教育・文化の分野においても、すべて継続的に取組み、推進を図っている。学校教育関係としては、特に「62 小中学校施設整備改修事業」として、計画的に校舎等の整備改修を進めるとともに、小中学校にエアコン、洋式トイレを整備するなど、教育環境の向上を図っている。また、修学旅行費補助の創設や、奨学奨励制度として高等学校等の入学に対し給付金を給付するなど、子どもを持つ家庭の経済的負担の軽減等にも取り組んでいる。スポーツ・文化関係としても、山岳ワールドカップや国体の開催など、様々なスポーツイベントやスポーツ教室の開催、また仏像等の保護調査、印旛高校跡地への歴史資料展示施設・スポーツ施設の整備などを行っている。ただし、スポーツの関係で「69 総合型地域スポーツクラブの設立」に関しては、合併時と比べてもクラブ数が増えていない状況から、D評価としており、今後、地域スポーツクラブという形態自体を推進していくか再検討していくものである。

・5都市基盤の分野においては、施策①適正な土地利用の推進と④快適な住環境の整備・充実に関連する取組みに関しては、概ね計画どおりに進められている。②道路網の整備・充実については、計画に掲載している道路のうち、岡台・内野線、猿内線、本埜101号線は整備が完了、細免・後田線、竜腹寺線については着手しているものの現在も整備中、師戸・江川線、本埜103号線、角田線については現時点で未着手という状況となっている。また、③公共交通網の整備充実

に関する取組みについては、まず「88 コミュニティバス運行事業」「89 路線バス運行対策事業」として、交通不便地域の解消に向け、バスルートの開設などバスの運行充実を図ってきたところである。なお、北総線の運賃問題については鉄道会社に対し申入れを行うなどしているものの、ニーズを満たすまでには至っていない。

・6 協働・行財政の分野においては、掲載事業についてはすべて取り組んでおり、概ね計画的に推進できているものが多い状況となっている。広報紙やホームページを通じて幅広く市政情報を発信するとともに、情報公開条例、市民参加条例のもと、市政への市民参画を推進している。また、地域のコミュニティ活動をより促進するため、町内会等の活動を支援するとともに、集会所の整備改修などについても計画的に進めている。

・これまでの取組状況等を踏まえ、資料3-2にあるように、8月31日付けで前回の印旛地区並びに本埜地区の地域審議会から、今後の市政へのご意見ご要望の答申を受理している。

質疑無し。

#### ○議事（2）今後のスケジュールについて

・資料4に基づき説明。審議会の開催スケジュールとしては、今年度は会議をあと1回、来年度は4回予定している。市長名で諮問した、新市基本計画の執行状況について、任期中に答申内容を決定し、答申書としてまとめていただくスケジュールとなる。

質疑無し。

・事務連絡として、審議会委員報酬について、会議1回につき一人7,500円となっており、所得税を源泉徴収し、差額を指定の銀行口座に振り込む旨を説明。

#### 会議資料

##### 会議次第

資料1 印西市、印旛郡印旛村及び同郡本埜村の廃置分合に伴う地域審議会の設置に関する協議書

資料2 地域審議会委員名簿(印旛地区・本埜地区)

資料3-1 新市基本計画掲載事業と取組状況について

資料3-2 平成30年8月31日付け答申書(印旛地区・本埜地区)

資料4 地域審議会の開催スケジュールについて

冊子 新市基本計画

冊子 印西市第7次実施計画(平成30年度～32年度)

平成30年度第2回印旛地区地域審議会・本埜地区地域審議会 合同会議会議録は、事実と相違ないことを承認する。

平成30年11月12日

印旛地区地域審議会委員 櫻井 健一

印旛地区地域審議会委員 須藤 賢一

本埜地区地域審議会委員 松苗 一樹

本埜地区地域審議会委員 岩井 とし子